6月 7日

2ねん 3くみ おおぬま かいと

ぼくのすんでいる
町には大きな
きょうりゅが
います。

0 5 10 100

floor plan[1:650]

N

floor plan[1:1000]

子供の好きな神様

ー神社境内の空間構成と遊環構造から考える子どものための心の聖域ー

2103 寺田 優月

00.　きっかけ

学童のアルバイト中に、小学 2 年生の女の子が床に広がったブルーシートを見て「先生、海みたいだね」と言った。

私にもそんな風に見えていた時が確かにあったことを思い出し、そしていつからそんな風に見えなくなってしまったのだろうかと考え始めた。

昔を振り返ると、頭の中に溢れるいろんな世界を絵で描くことが好きな幼少期だった。

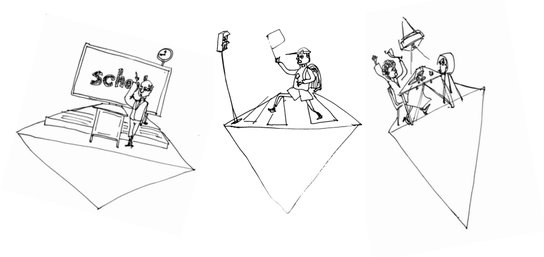
大きくなるにつれて学校という小さな社会で物事の仕組みを知り、その世界をはじめて否定される経験をし、いつしかあまり絵を描かなくなった。

そんな私が好きだったのは神社や海だった。

ただ何か大きな存在を無意識に感じ、それを否定されることもなく自分の声がよく聞こえる場所だったからだ。

近年、学校と家という子どもたちの安全基地であるはずの場所の不安定さから、子どもたちの想像が否定されることのない心の聖域をつくりたいと考えた。

神社境内の空間構成や仙田満による遊環構造の考えを元に、
大人と子供のモノの見え方のズレ、そのズレの中に存在する誇大妄想建築。
里山に建てられた地下通路が、子供たちの想像でさらに広がる新たな建築がそこにはあった。



01.　対象地域

対象地は神奈川県横須賀市東浦賀にある明神山という里山とする。

この里山には浦賀城という北条氏康が築城したとされる山城城跡があり房総半島や東京湾を一望することができる。

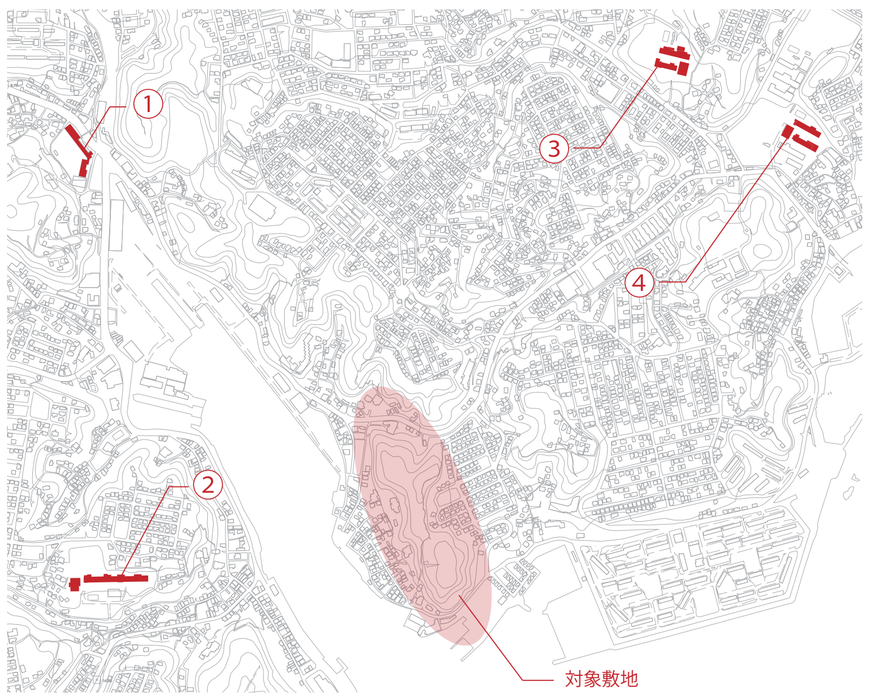
https://miurahantou.jp/uraga-jou/

また近隣には 4 つの小学校が位置しており，それぞれ全校生徒が

①横須賀市立浦賀小学校・・・405 人　　②横須賀市立高坂小学校・・・308 人

③横須賀市立小原台小学校・・・349 人　　④横須賀市立鴨居小学校・・・300 人

となっている。



02.　現代における宗教的空間

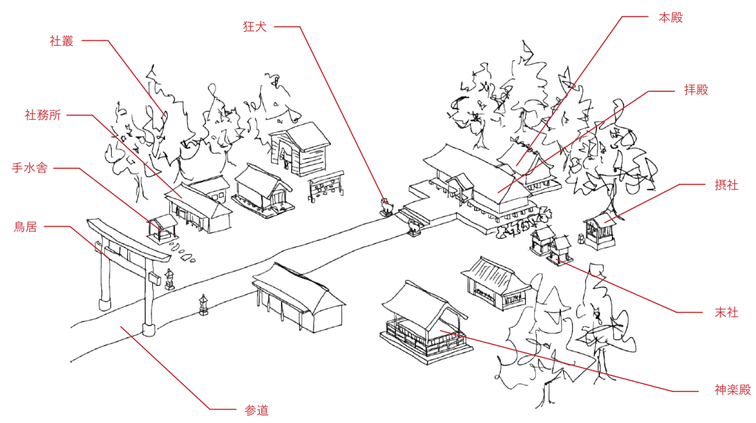
日本の宗教観は自然信仰から神仏信仰に変化していった。

しかし、近年神秘的なイメージが自然からの印象をきっかけに生まれながらも神や仏に限らず、抽象的なイメージとして個人の中に留まり解消されていく新たな宗教観へと変化している。

子供だけでなく大人も心の中で自由に何かの存在を描いているのだ。

そんな想像を掻き立てているのは

・神社や寺院のように信仰対象を知的に、視覚的に理解することができるようにする「神社境内の空間構成」



・礼拝所も偶像もない空間だからこそ，目に見えないものの存在を積極的に感じ取ろうとし、不思議な緊張感が生まれる「沖縄の御嶽の空間構成」

ではないかと考え、要素として抽出し設計に取り入れた。

03.　子どもと神さま

古くから神と子ども繋がりは存在していたとされる。

聖域＝見えない世界

しかし子どもには、その見えない世界が時折見えているのでは無いかと思わせる言動がある。

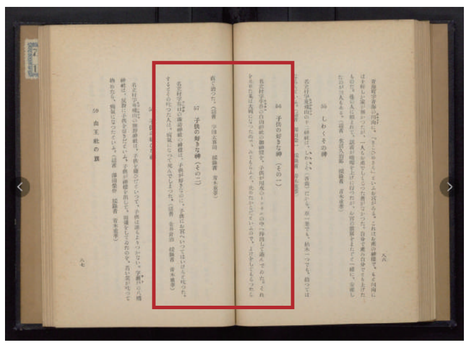
実際に 1990 年 7 月に放送された日本昔ばなし「子供の好きな神様」という

アニメでは新潟県西頸城郡郷土誌稿・第 2 輯にある「子供の好きな神」という題のふたつの昔話が元になっている。

子どもたちには，見えない世界が見えている世界として存在するのだ。

それはもしかすると，まだ足りない知識を補う

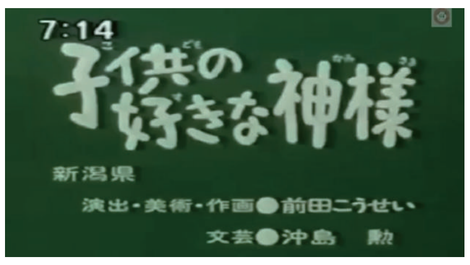
「想像力」なのかもしれない。



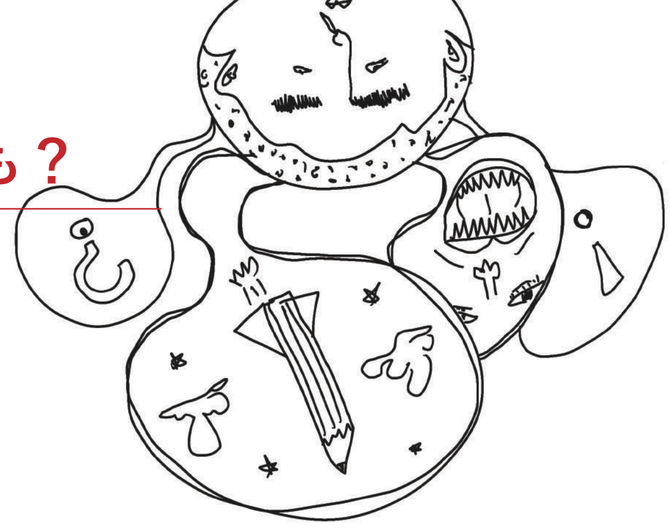
参考文献

・TBS 系列で放送された TV アニメ「まんが日本昔ばなし」
　子供好きな神様
　放送回 :0757-A 放送日 :1990 年 07 月 14 日 (平成 02 年 07 月 14 日)　演出 : 前田こうせい 文芸 : 沖島勲 美術 : 前田こうせい 作画 : 前田こうせい

・新潟県西頸城郡郷土誌稿 第 2 輯
　著者：西頸城郡教育会 編出版者：西頸城郡教育会
　出版年：1936 年



04.　大人？子ども？



何歳まで子どもで

何が出来たら大人なのか。

大人と子どもを隔てるものは何なのか。

ここでは、年齢などは関係なく

・〈見えている〉のが子ども

・〈見えない、見たい〉のが大人

と定義づけたい。

そして彼らに〈見えている〉世界はどんな世界なのか、一緒に考えていただきたい。

05.　子どもたちの " 想像で広がる " 建築とは

本研究では、**現実と想像の間に位置する空間**をつくることを目指し、実際に建てられた地下通路に子どもたちが「恐竜みたい」「雲みたい」と自由に想像を重ねることによって完成する。

そのためにはまず、想像を掻き立てる既存の建築物が**有機的かつ抽象的で奇妙なモノ**であるべきだと考えた。

そこで、里山の全てのエネルギーを吸い今も尚成長し続けているような**架空生物**をモチーフに線を繋いだ。

内部は、見えない場所から聞こえる足音や差し込む光、歩きづらい道によってまるで**体内**を歩いているような空間となっており、あえて地中につくることによって包み込まれているような体内感をより一層際立て、里山とより一体となっていることを強く印象付ける。

そして、里山から溢れ出すエネルギーは海に溶け出し、いつしか人さえも飲み込んでしまうかもしれない。

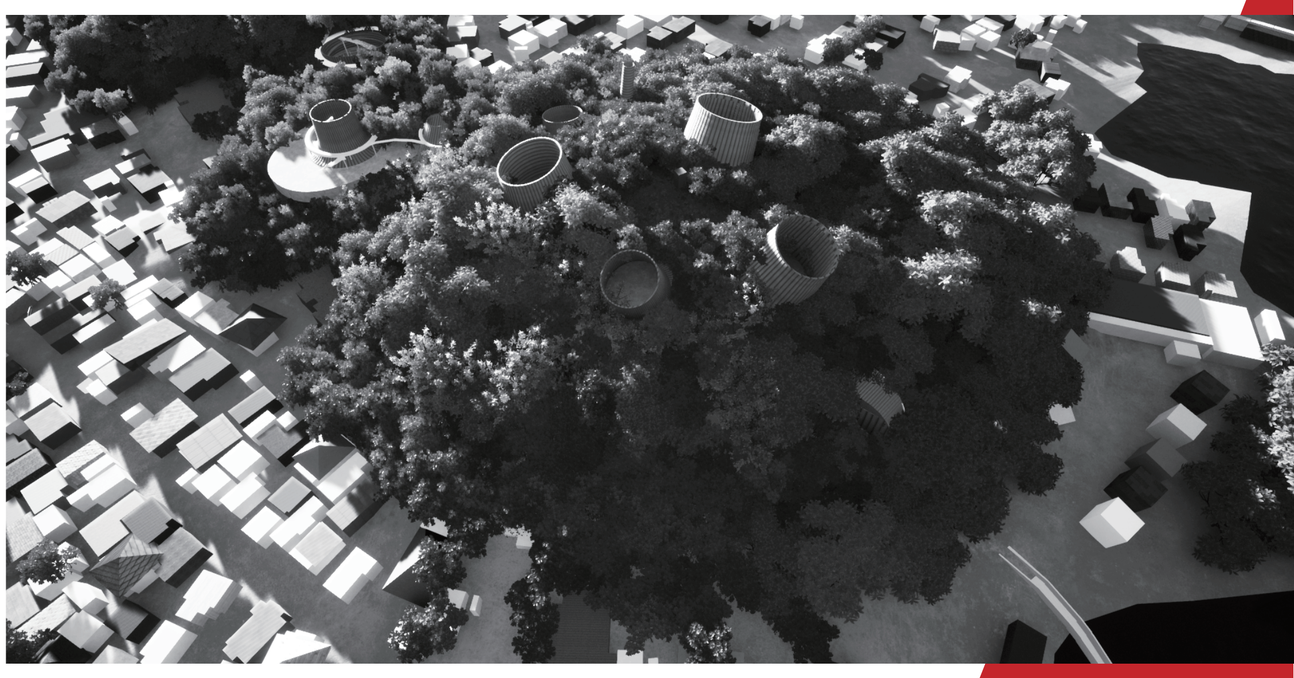
そんな**楽しさ**も**悲しさ**も、**恐怖心**さえも感じるこの空間と共に子どもたちは遊び悩み成長していく。

「ない。けどある。」

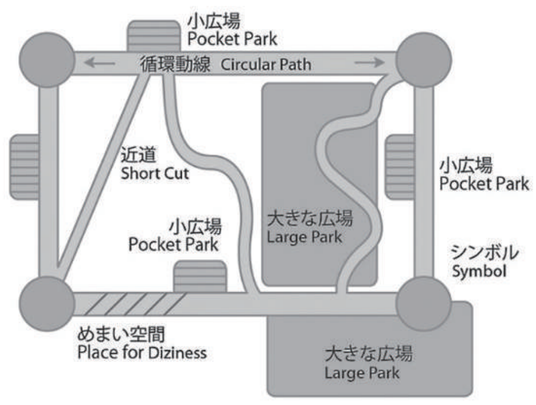
子どもたちが創り出す空間は**純粋で、無意識のうちにこの現実世界に広がっている。**

●diagram

里山に散らばるエネルギー　▶　水滴がひとつになるように集まる　▶　大きな生物として成長していく



06.　仙田満による遊環構造



① 循環機能があること

② その循環 (道) が安全で変化に富んでいること

③ その中にシンボル性の高い空間、場があること

④ その循環に “めまい” を体験できる部分があること

⑤ 近道 (ショートカット) ができること

⑥ 循環に広場が取り付いていること

⑦ 全体がポーラス (多孔質) な空間で構成されていること

・道スペース

・オープンスペース

・アジトスペース

→廃材置き場や工場現場のような混乱に満ちたスペース

・アナーキースペース

・自然スペース

・祈りのスペース（めまい空間）

→「肉体的精神的一時的パニック状態を楽しむ」

参考文献

・ 仙田満 / 遊環構造デザイン：円い空間が未来をひらく

・ ロジェ・カイヨワ / 遊びと人間

遊環構造ではこれら６つのスペースと７つの条件が子どもたちの遊び空間として有効であると考えられており、これにプラスして祈りのスペースをめまい空間として設け、空間を配置していった。

めまいとは、「肉体的精神的一時的パニック状態を楽しむこと」とロジェ・カイヨワは定義しており、わかりやすくいうと

滑り台やブランコなどの飛ぶ、滑る、揺れるなどの瞬時の行為から

気持ちが昂り熱中するスタジアム、祈り一体感を持つ聖地などを指している。

また、調べ進めていく中でいくつかの神社が遊環構造の配置になっており、

遊環構造を取り入れることで、自然と神社の空間配置を作り出すことが可能だということがわかった。

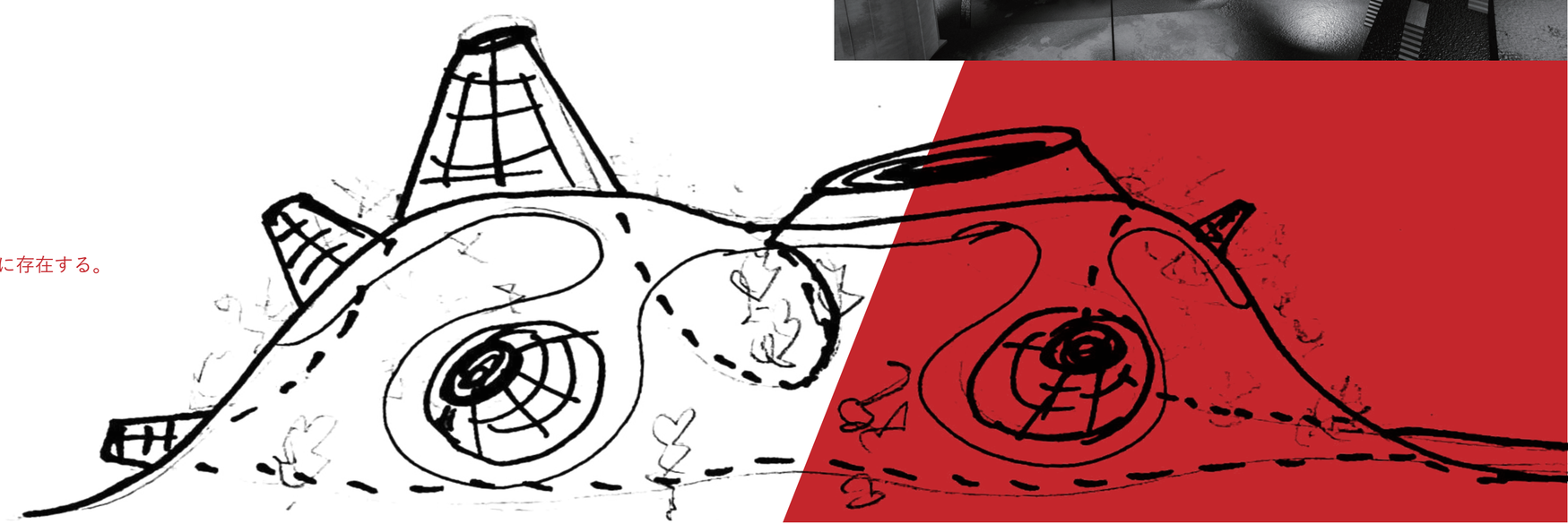
07.　おわりに

結局なんだったんだ？

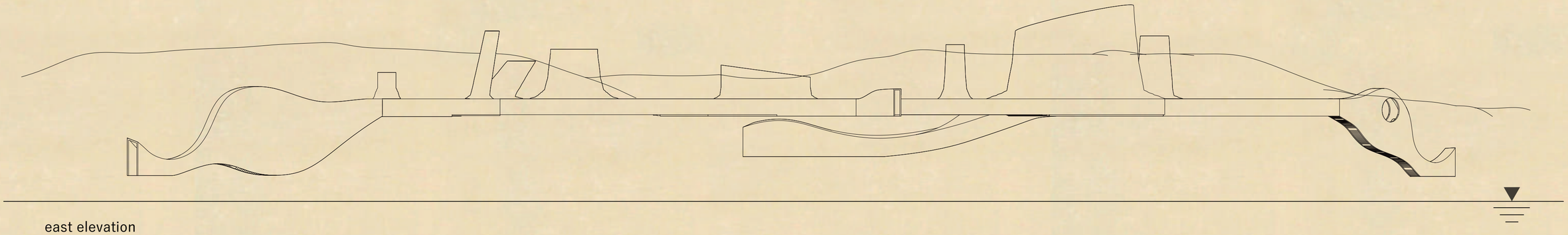
そう思い眺めているあなたはきっと立派な “ 大人 ” なのだろう。

本研究は、

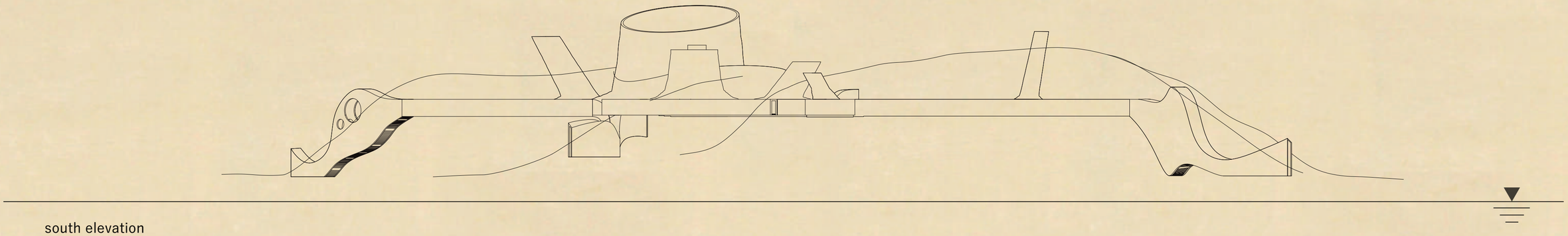
幼い頃の私を救い、これからの子どもたちが〈見る〉世界を守るために存在する。



site plan[1:1500]



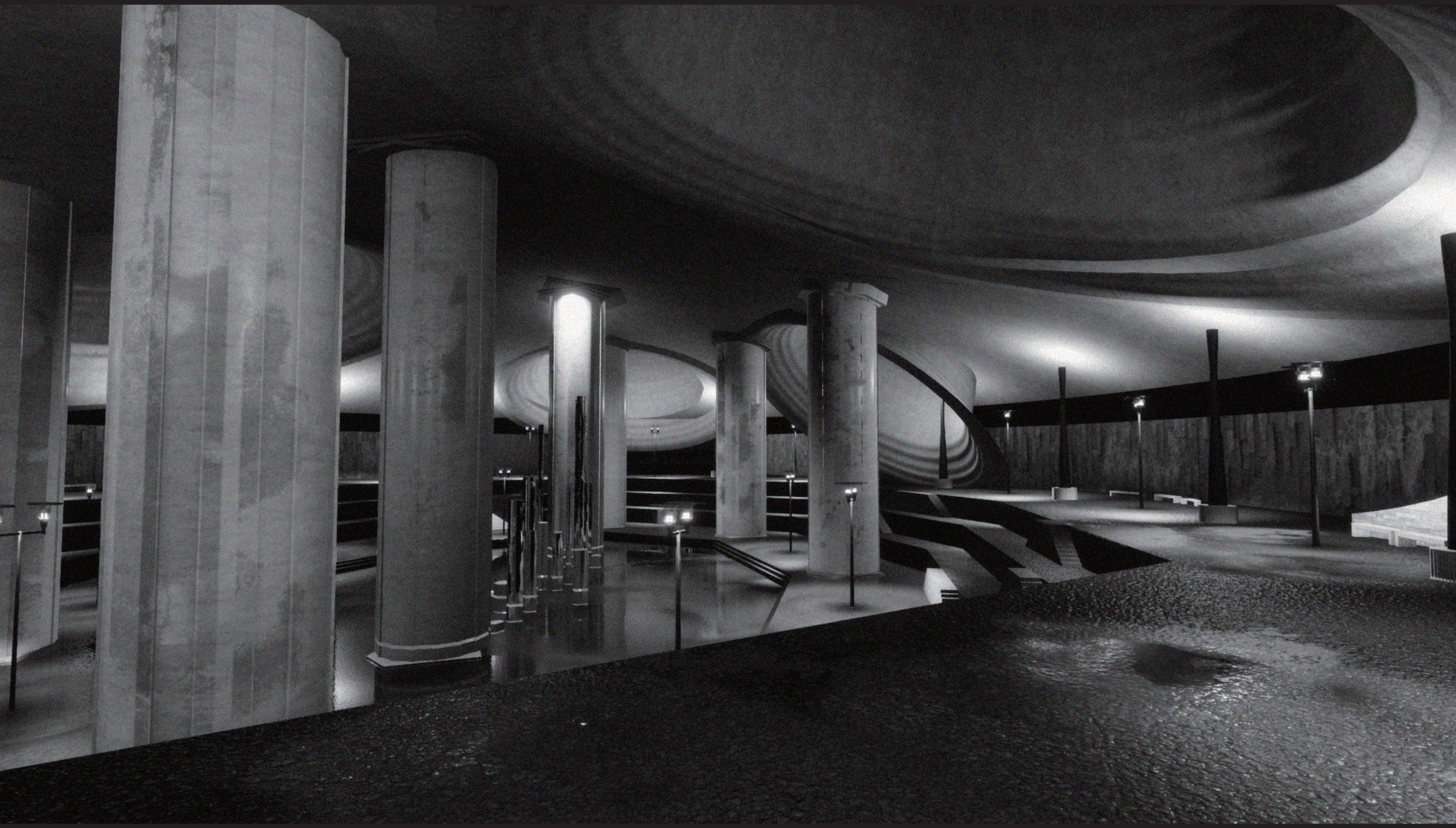
east elevation

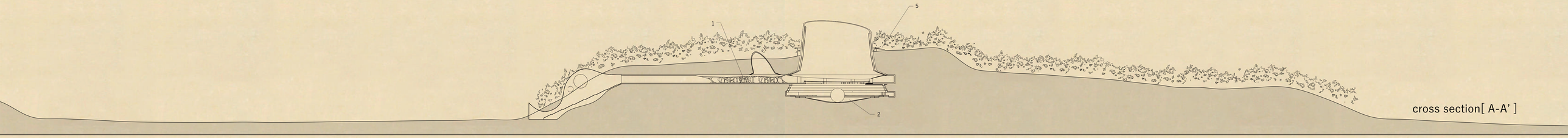


south elevation

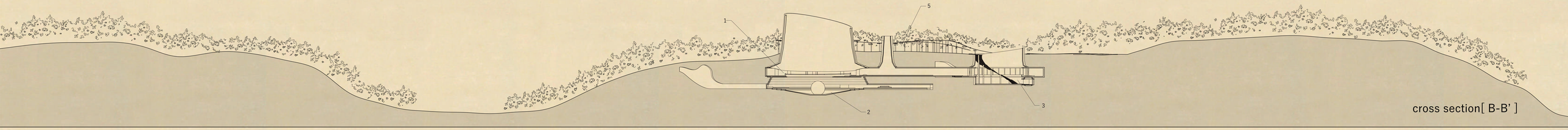
0 5 10 100

elevation[1:1000]

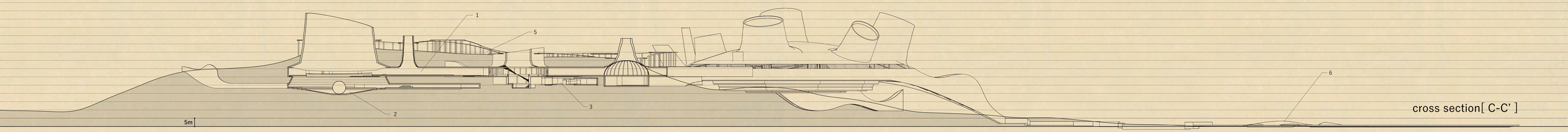




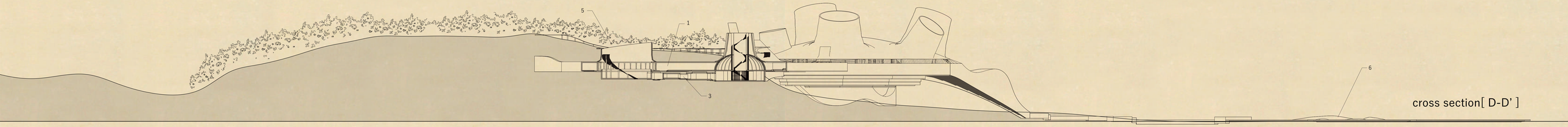
cross section[A-A']



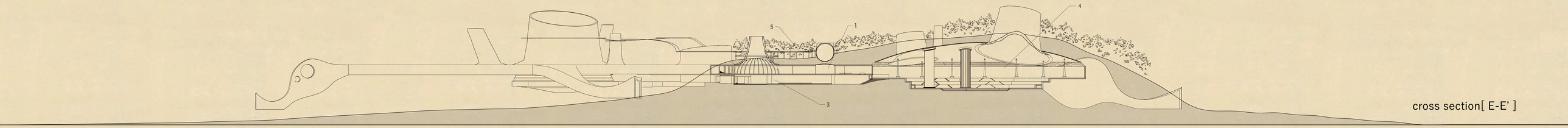
cross section[B-B']



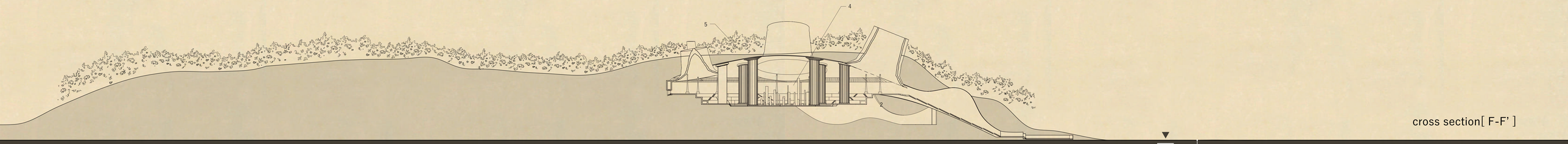
cross section[C-C']



cross section[D-D']



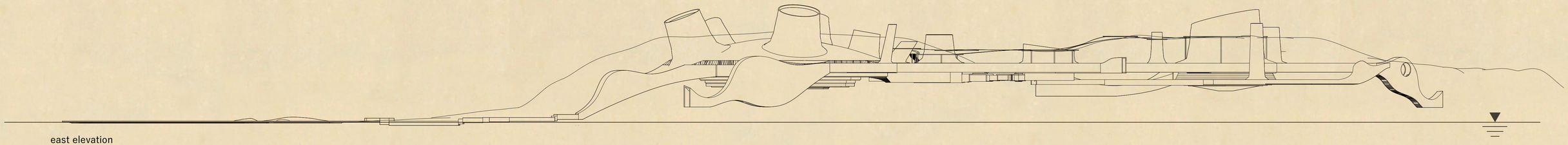
cross section[E-E']



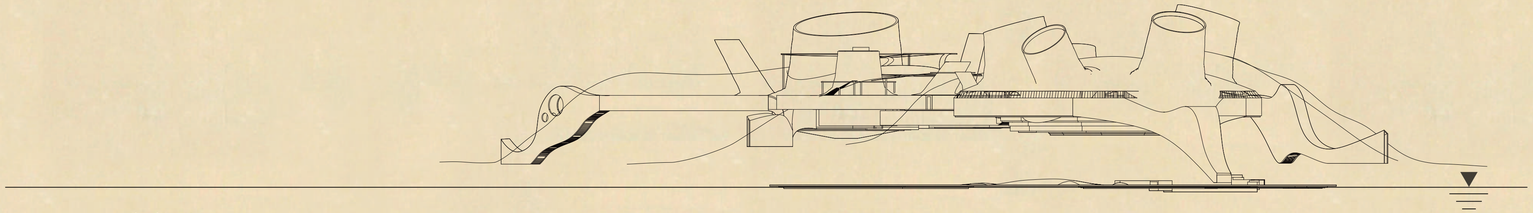
cross section[F-F']

0 5 10 100 [1:800]

20m

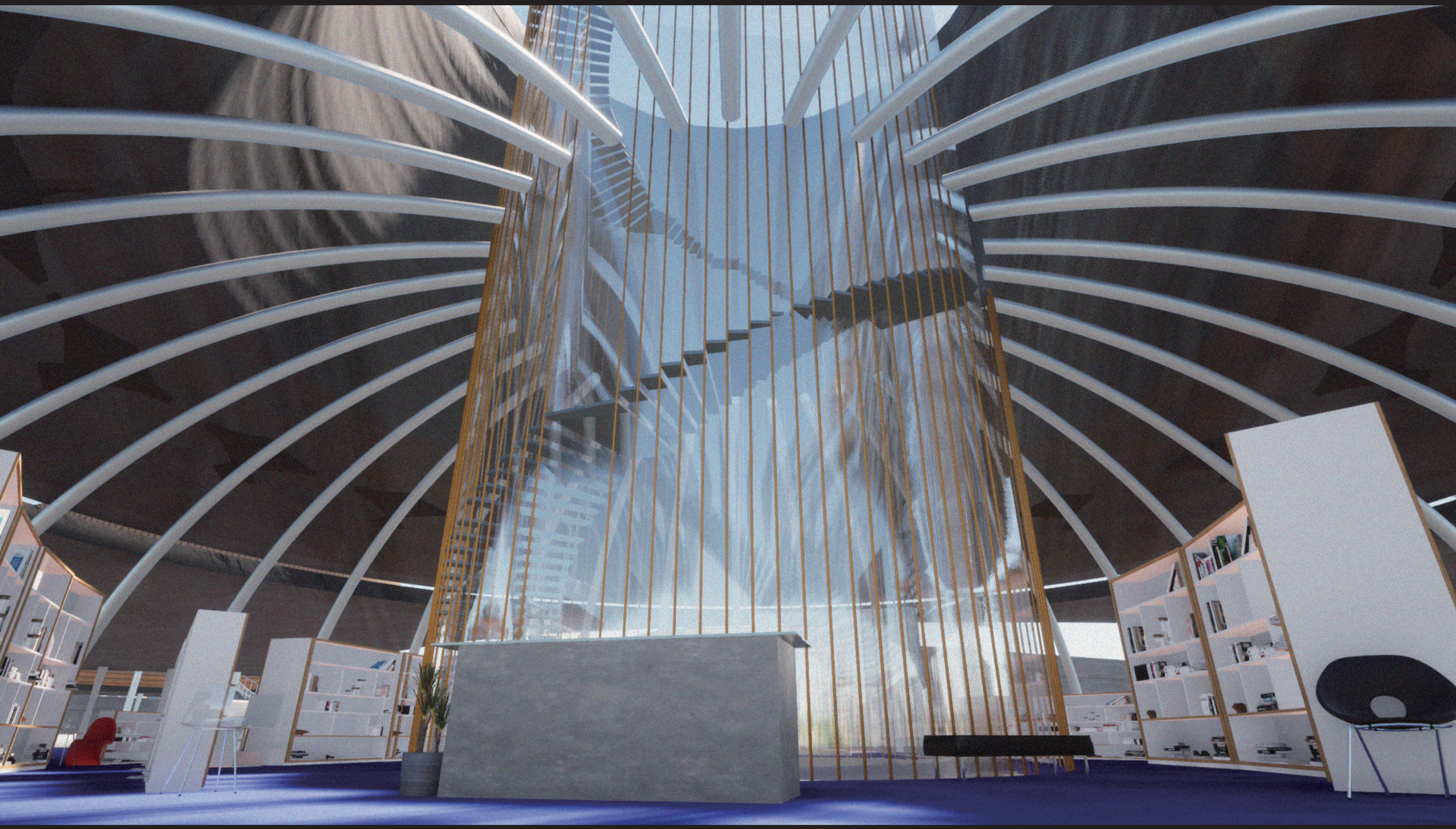


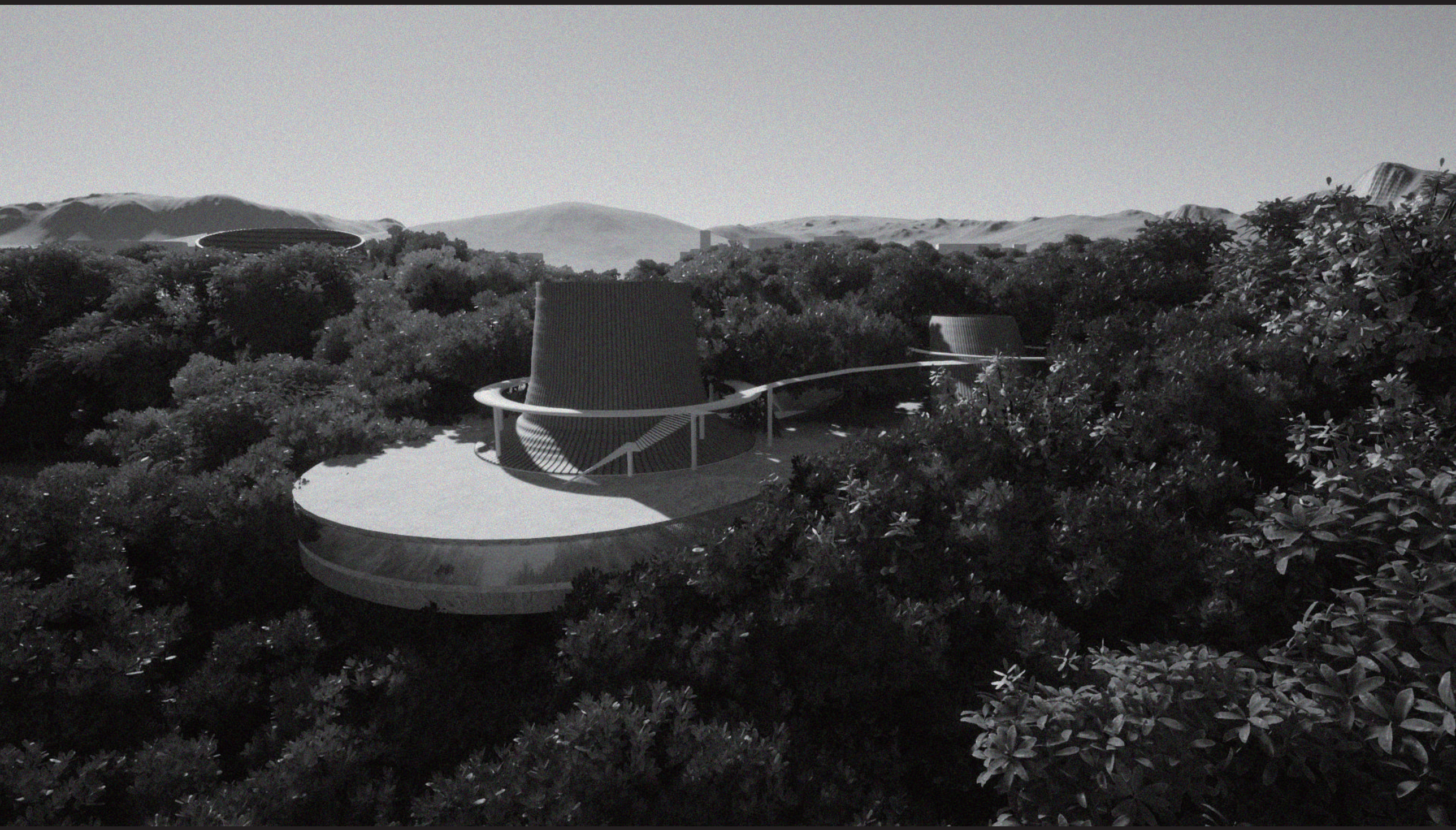
east elevation

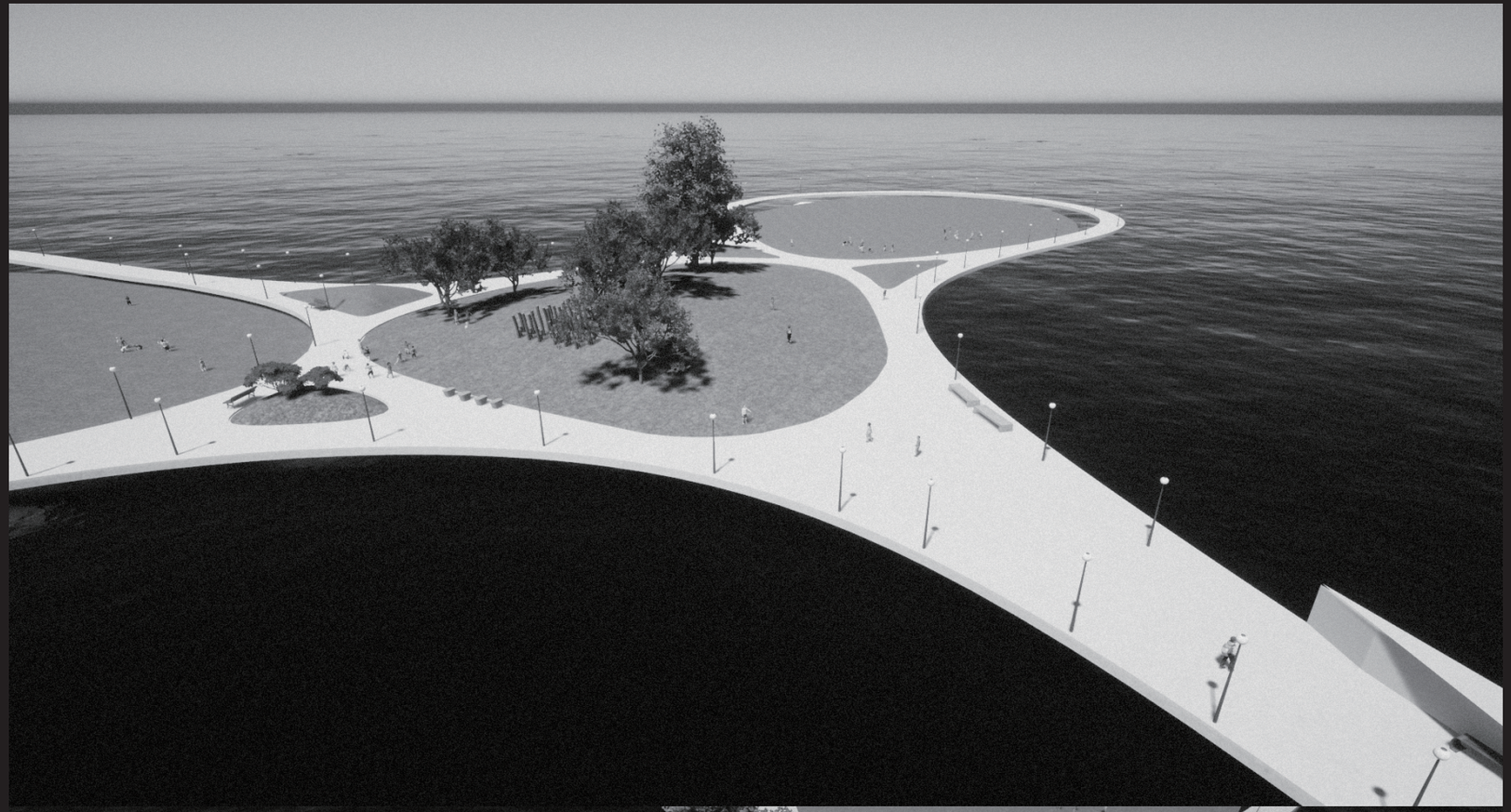


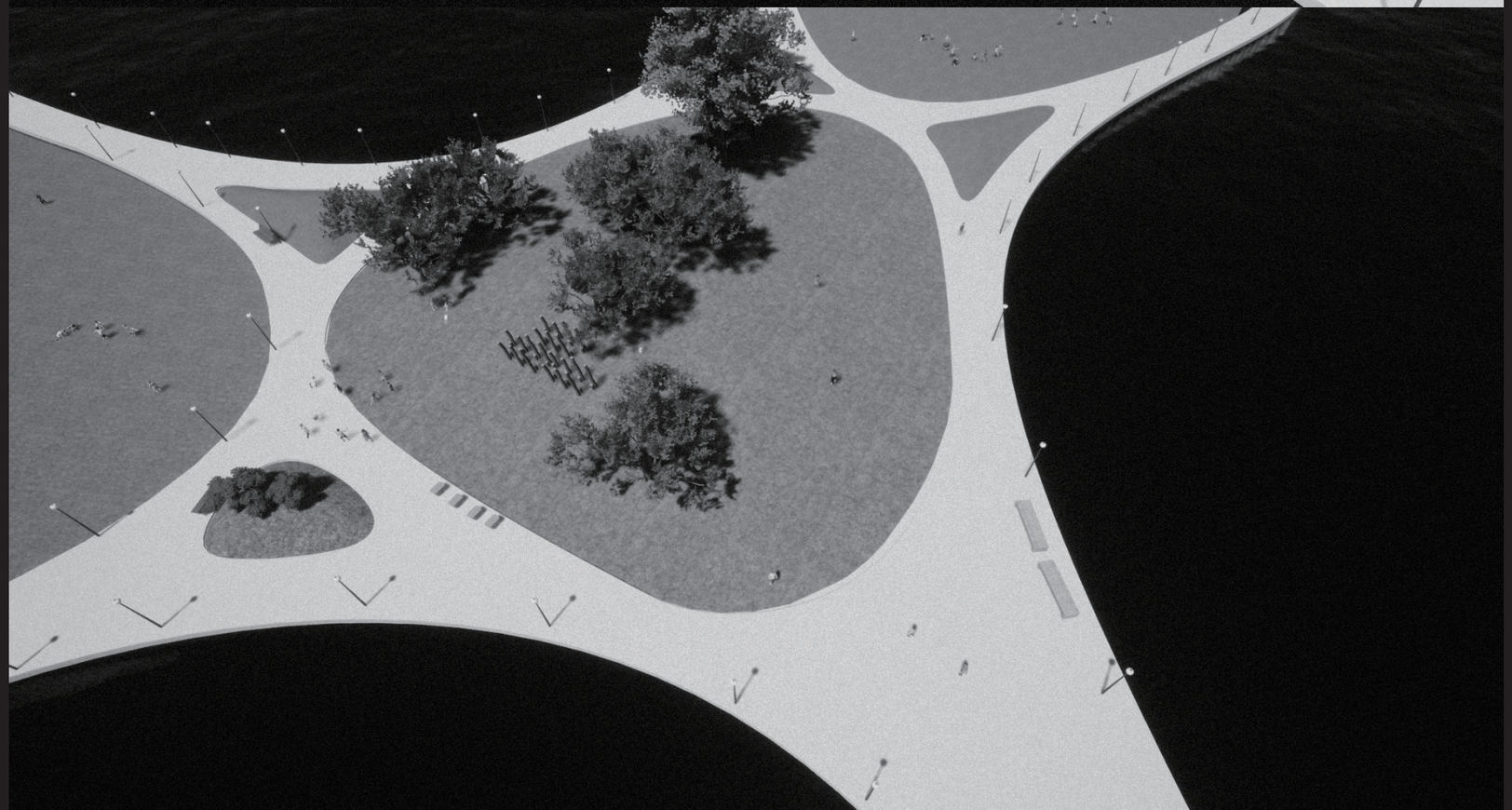
south elevation

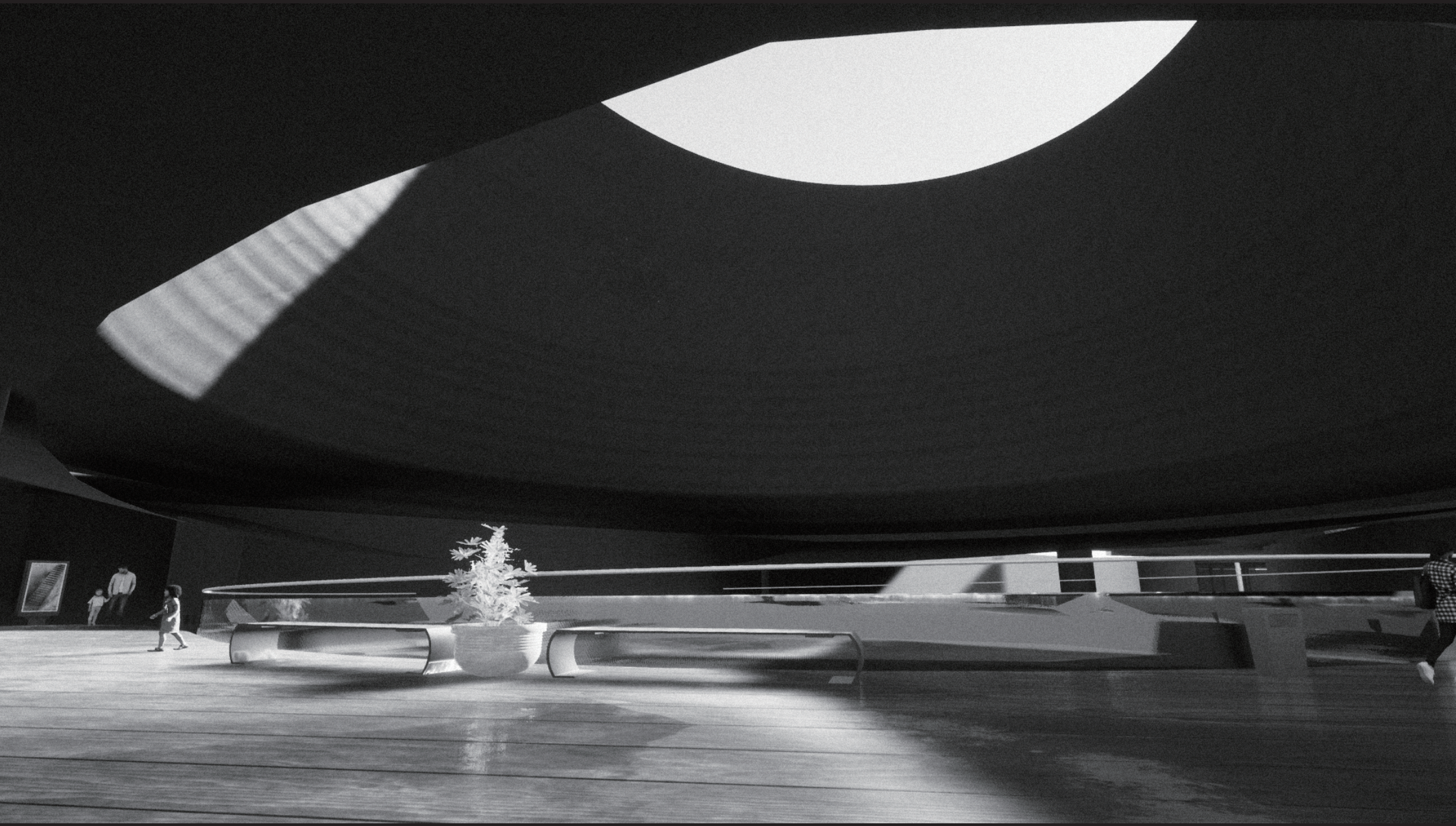
0 5 10 100 elevation[1:1200]











1. 道スペース

2. 祈りのスペース

3. アジトスペース

4. アナーキースペース

5. 自然スペース

6. オープンスペース

今月15日に，

神奈川県横須賀市東**浦賀**に新たに出来た

地下通路の開通式が行われました。

この頃私の父は、私の名前も間違えるようになりました。

最近は

『あの山にまだ居たのか。また会えるとはなあ、』と言うんです。

（あれ？ない。）

入れなくなっちゃった。

今朝、8歳の息子が里山にできた

地下通路開設のニュースを見て

「生きている」と言った。

私には見えなかった。

Hey, Mom.

What was that?

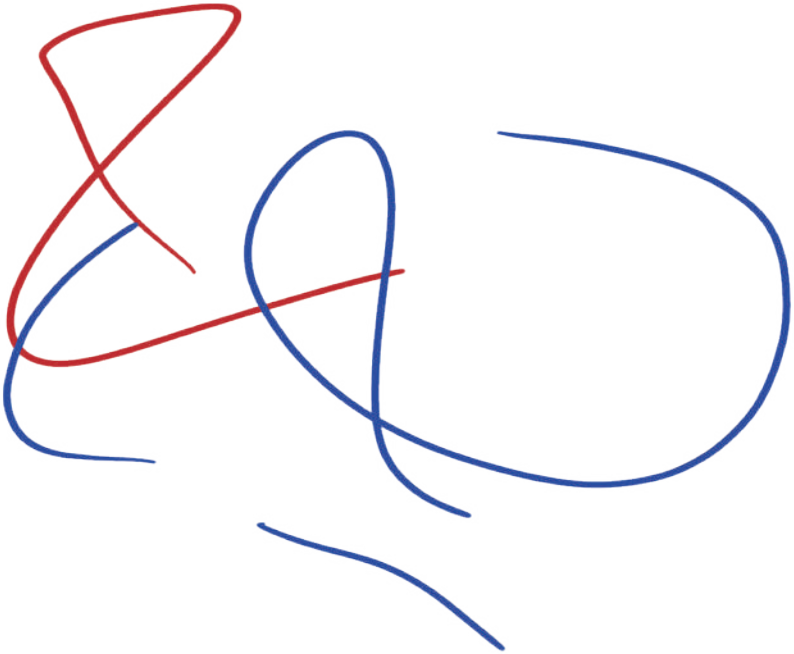
たったったった、、、

キャキャキャキャ

いつも

おじゃまします

あやより



すごく便利に使わせてもらってます。

でも、なんだか下から声が聞こえることがあって

ちょっと怖いですよね

ドクンっ

1. 地下通路

2. トイレ

3. 図書館？

4. 中庭？